
教育総合センター

だより

NO. 117

平成 22.9.1

夢の途中

尼崎市立武庫庄小学校
校長 小笹 雅幸



琵琶湖の西岸から比叡山の北側の朽木街道に入る辺り、朽木峠を越えたところに『途中』という地名がある。その地名に惹かれて、ついついドライブでもその場所を通ろうとすることがある。『途中』とは言葉通り道半ばという意味である。

ところで、私の座右の銘は『夢の途中』である。夢は、「教えること。校長職をやり遂げること。」である。これには理由がある。仕事も儘にならないほど成人病に負けていた時期があったからである。体力より体重に自信があった時期に...

そんな私にも、今年の夏の猛暑に負けないほど体力に自信があった時期がある。県立尼崎西高校の球児時代。「体力尽きて、技尽きて、気力を持ってこれにあたる。」という部訓を背に、野球部創設5年目で甲子園を目指した。ほんの40年ほど前のことである。

高校2年生（昭和43年）の夏、オール2年生で、県大会で準優勝した。しかし、惜しくも決勝戦で負けたのは、捕手であった私のミス。ホームスチールの戦術を知らずに1対0で市神港高に敗れた。秋の近畿大会でも、京都代表の平安高校に打者の私のミスで敗れた。送りバントの指示に気づかず強打したからである。春の選抜甲子園出場を目指していたチームにとっては強烈

な敗戦だった。

高野連の選抜大会出場校発表（翌年2月1日）までが長かった。発表1週間前のミーティング時、精神的に弱い私は、部員に「甲子園に行けなかったら退部する。」と告げた。「主将のくせに情けないことを言うな」、「夏がある」、「泣くな、男やろ」と皆から叱られた。

ところが、運良く春の選抜甲子園に兵庫代表として選ばれた。私は足を引っ張っただけ...。それでも甲子園ではベスト8に入った。チームメイトのおかげである。まさに“弱虫の主将は、チームを強くする”である。

その後、子どもが好きで小学校（小園小、園田南小）の教師になった。汗水垂らしながら子どもたちと遊び、勉強し、楽しい教師生活を送ってきた。今は小学校校長会の会長。そんな今でも、常に高校野球の志は持っている。「どんな時でも甲子園を目指したい」と。その“甲子園の志”を察して、折々の仲間がチーム作りをしてくれたと思う。

私は弱虫リーダー故に、チームの繋がりや結ぶ役目を担っていたのではないかと自負している。そんな自信は、自分の経験からくるもので揺るがない。尼っ子教育、甲子園、未だ「夢の途中」である。

一般教養研修を終えて

1 運命的な出会いから

本年度、私が担当する研修の一つに一般教養研修がありました。毎年企業の方を講師として招聘する研修です。異業種の方の講話を楽しみにしている先生方もおられるので、講師の選定には悩んでおりました。

そんな時、いくつかの候補の中から、尼崎の工場でレタスを栽培する会社の話を妻にしました。すると、「毎日弁当にそのレタスを入れている。」とのこと。また、その日の夜のニュースでも講師が取り上げられており、運命的な出会いを感じました。

2 講師依頼にあたって

講師の依頼を連絡し、打ち合わせをしに会社へ伺いました。立派な応接室に通され、緊張しながらも名刺交換をして研修の目的を説明しました。

講師からは、フェンス等の針金やボルトをこの尼崎から全国へ納品しており、身近に自社製品を見つけることができること、硬式野球部が地域貢献活動をしていること、そのほか専門外の新規事業を展開していく苦労や、今持っている技術をレタス作りに活用する工夫等の話を伺うことができ、講師としてお越しいただくのにも適任の方だと確信しました。

工場も見学させていただき、気がつけば2時間ほどの時間が経っていました。帰りには、研修担当ならではの「人と出会う喜び」を感じました。

3 研修に至るまで

講師からは、これまでの研修テーマやその時の講師、参加人数等の質問があり、過去のデータをお知らせするというやり取りがありました。驚いたのは、講師自ら過去に講師をされた方々に連絡をされ、資料を取り寄せたり、事前に会場の下見に来られたりと、今回

の研修に対して入念に準備をされていたことです。連絡を取るのにもなかなか繋がらない多忙さにもかかわらず、ここまで準備してくださることに並々ならぬ熱意を感じました。

4 研修当日を迎えて

研修当日は、打ち合わせの時に話していただいた内容にプラスして、野球チームが優勝したことから王貞治さんの表敬訪問を受け、激励していただいたことが何よりの励みとなった(講師は九州出身でホークスの大ファン)ことなど、いろいろなエピソードを紹介していただきました。

最後にはレタスの試食を用意していただき、お箸やお皿、ドレッシング、さらにはゴミ袋まで準備していただきました。細かなところまで配慮が行き届いた姿勢にこちらも驚くばかりでした。

5 研修を終えて

講話内容はもちろんのこと、初めの電話から研修当日まで、出会う度に驚きや発見があり、足でかせぐことの大切さを学ばせていただくことができたように思います。

先生方からのアンケート内容からも、多くのことを学んだり、感じ取ったりしていただいていることを大変うれしく思っております。



受講者の皆さんにとって、一つの研修が「人との出会い」の場となり、新たな発見や学びにつながる機会となれば幸いです。

一般教養研修 平成 22 年 7 月 29 日
テーマ 鉄から野菜へ...日亜鋼業グループの新たな挑戦」
講師 日亜物産株式会社 取締役
佐藤 雅文 氏

(研修担当指導主事 寺田 忠司)

一人一人の心に寄り添う教育相談

はじめに

情報機器の急速な普及など生活環境が変化し、子ども達の人間関係を結ぶ力の未熟さが指摘されています。こうした状況の中、教育相談担当では、心に悩みを持つ子ども達や保護者、教員や学校を支援し、未来を担う子ども達の望ましい成長をめざして日々取り組んでいます。

1 教育相談の現状

教育相談では、主に面接と電話での相談を行っています。相談件数では、面接・電話とも小・中学校の児童生徒に関するものが相当数を占めています。相談内容では、保護者からは、不登校、しつけ・子育て、友人関係などに関するものが多く、学校園からは衝動・多動傾向、集団になじみにくい等、子ども達への関わり方などについてのものが多く見られます。

平成 22 年 7 月 31 日現在の実施状況

校種別		就学前	小学校	中学校	高校	教員・一般
面接相談 (延べ回数)	回数	54	656	299	60	24
	割合	4.9%	60.0%	27.4%	5.5%	2.2%
電話相談	人数	32	304	171	47	73
	割合	5.1%	48.5%	27.3%	7.5%	11.6%

相談では、特に次の点に留意しています。

一人一人に丁寧かつ可能な限り迅速な対応を心がける。

それぞれの相談の見立てと経過、目標を明確にしてきめ細かな支援を行うとともに、学校への報告を密にする。

必要に応じて福祉、医療機関等を紹介するとともに、これら関係機関が連携して支援できる体制づくりに努める。

今、子育て支援については、学校や福祉、医療機関、地域が連携を図りながら取り組んでいくことが大きな課題となっています。教育相談担当においても、事例研究や研修を通して相談員とともに実践力の向上を図り、市民や学校か

ら信頼され、活用される教育相談でありたいと考えています。

2 よりよい人間関係づくりをめざして

この3年間、教育相談研究部会で、先生方とともに、「日頃からよりよい人間関係をつくる活動を取り入れ、問題の発生を予防する取り組みについて」の研究を重ねてきました。

研究にあたっては、まず、個や学級集団の実態を客観的に把握するため、Q-Uアンケートや希望調査等を行いました。それらの結果をふまえ、日々の学級活動や授業の中で、

- ・振り返りの時間の中で自分と向き合う
- ・書く、話すなど、自分の気持ちを言語化する
- ・グループや学級で互いの思いを知り認め合うことを目的に、「生活振り返りビンゴ」や「心の温度計」などの取り組みを行ってきました。

こうした取り組みを日記やQ-Uアンケート等で検証した結果、集団の中での自己理解、他者理解が深まり、子ども達のつながりが見え始めてきました。

3年間の研究を通して、子ども達は、「励まされ、認められる集団の中にいる、人とつながることが楽しい」と気づいたとき、自信を持ち、変わり始めることを、改めて強く感じました。今後、この取り組みを学校へも発信していきたいと考えています。

おわりに

子ども達には、『人は、一人ではない』と肌で感じてほしいと願い、相談や研究を進めてきました。学校も教師一人の力には限界があります。集団の力で組織的に対応し、悩みや困難を抱える子ども達の情報を共有すること、また子どもや保護者への対応が揺れないよう、共通の目標とそれぞれの役割を確認し支え合うことが大切だと思います。(教育相談係長 荒木伸子)

教育情報コーナーへ どうぞ

夏休みの間静かだった学校に、子どもたちのたくましくなった顔と元気な声が戻ってきました。新たな気持ちで2学期をスタートダッシュ。新着図書から、話題の本を紹介します。



『野口流 教師のための話す作法』

野口芳宏著 / 学陽書房

教師の仕事は話すこと、といっても過言ではありませんね。話す技を磨き、子どもたちの心にすっと入っていく話術を身につけるのは、教師の基本です。授業中の話し方から、子どもの心をつかむ聞き方まで、具体的な技法とその本質である心構えまでも、学ぶことができます。

『[復刊] 自然の観察』

日置光久他編集・解説 / 農山漁村文化協会

本の帯に「レイチェル・カーソンに先立つこと約20年、奇跡のように生まれた日本のセンス・オブ・ワンダー」とあります。昭和16年に出版された小学校低学年理科のための教師用図書ですが、理科・生活科にとどまらず教育の本質までも改めて考えさせられます。

『クラスで気になる子の支援 ズバツと解決ファイル』

阿部利彦著 / 金子書房

・すぐあきらめてしまう子 ・乱暴な子 ・落ち着きのない子 ・ウソをつく子など先生方がよく出会う気になる子どもたちの12のケースを取り上げています。子どもが持つ困難の要因や背景について解説した上で、解決の方略を、具体的にわかりやすく例示しています。

『小1プロブレムを克服する！ 幼少連携活動プラン』

小林宏己著 / 明治図書

なぜ「小1プロブレム」が生まれるのか。どのようにしていけば子どもの姿が変わるのか。子どもと保護者と教師の三者の立場をふまえながら、解決に通じる具体策を考えます。明日の実践に生かすことのできる交流・授業事例を紹介しています。

『法規+教育で考える生徒指導ケース100』

嶋崎政男著 / ぎょうせい

社会の急激な変化は学校にも押し寄せ、生徒指導の対応に、ベテランの先生方でも苦慮されることが多くなっています。初期の対応を誤ると大きな問題に発展しかねない場合もあるようです。本書では、生徒指導の問題100を選び、根拠となる法令と解決方法について解説しています。

視聴覚教材のデータベースを制作しました

視聴覚ライブラリー保管の教材をデータベース化して、「教材検索」をやすくしました。

このデータベースは、学校や社会教育関係施設に配付済です。

教材は、16ミリフィルム(386巻)、ビデオ教材(650巻)など、総数1,000タイトル以上あります。授業だけでなく、道徳・特別活動さらには教職員研修に利用できる教材がそろっています。街のレンタルショップでは手に入らないタイトルばかり。一度利用して下さい。

今回制作したデータベースを利用すると、タイトル別検索をはじめ、教材のジャンル・利用対象者別の検索他、内容をキーワード検索することも可能です。

このシステムを利用して、「貸出申込書」が作成・印刷できます。今後、利用者登録後は庁内メール便で「貸出申込書」を送付していただき、貸出予約をしていただくことが可能です。